

展覧会名：文化村クリエイション vol.1 黒田大スケ 展覧会「湖底から帆」

作家名：黒田大スケ

会期：2023年2月11日（土）-2月26日（日）

時間：9:00-19:00

休廊日：なし

主催：なら歴史芸術文化村（助成：令和4年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業）

展覧会概要：

なら歴史芸術文化村では、様々なアーティスト交流事業を実施しています。中でも「文化村クリエイション」は、先進的なアーティストを招聘し、リサーチ、制作、作品発表を行うプログラムです。なら歴史芸術文化村がオープンした2022年3月からの2ヶ月間、1人目のアーティストとして美術家の黒田大スケ氏を招聘し、作品制作の為にリサーチを行いました。本展覧会では、そのリサーチを基に制作された新作を展示します。

今回黒田氏が着目したのは、なら歴史芸術文化村の周辺で第二次世界大戦の終戦間際に急造された「大和海軍航空隊大和基地（通称：柳本飛行場）」です。リサーチでは、現在は田畑や民家となっている広大なエリアに点在する飛行場の遺構を、先行研究や当時の航空写真等を頼りに探し歩きました。遺構を直接見て触れてまわることで体験として飛行場を身体化し、かつての景色やそこにいた人々についての実感を引き寄せることを試みたそうです。

これまで黒田氏は様々なリサーチを通じ、確かに存在するけれど、見えず忘れさられ無視された幽霊のような存在を見出し、姿を与えるように作品を制作してきました。本展で黒田氏は何を作品として作り出すのでしょうか。

本展覧会は複数会場にて開催します。なら歴史芸術文化村を主な会場に、天理市本通り商店街内のArt-Space TARNや、天理駅前広場コフフンのサイネージを周って見ることで、天理市周辺に広がっていた飛行場を少しでも体感していただければ幸いです。

関連イベント：

アーティストトーク

黒田さんが、今回の作品のを中心にお話しします。

○日時

2月11日（土）13:00~14:00

2月26日（日）13:00~14:00

○場所 Art-Space TARN

作家プロフィール：

1982年、京都府生まれ。広島市立大学大学院博士後期課程修了。彫刻家、橋本平八の研究で博士号取得。作品制作の他に展覧会の企画運営も手がける。アーティスト・コレクティブ「チームやめよう」主宰。現在、関西を拠点に活動。彫刻に関するリサーチを基に、近代以降の彫刻家やその制作行為をモチーフとしたパフォーマンス的要素の強い映像を制作、シリーズとして展開している。

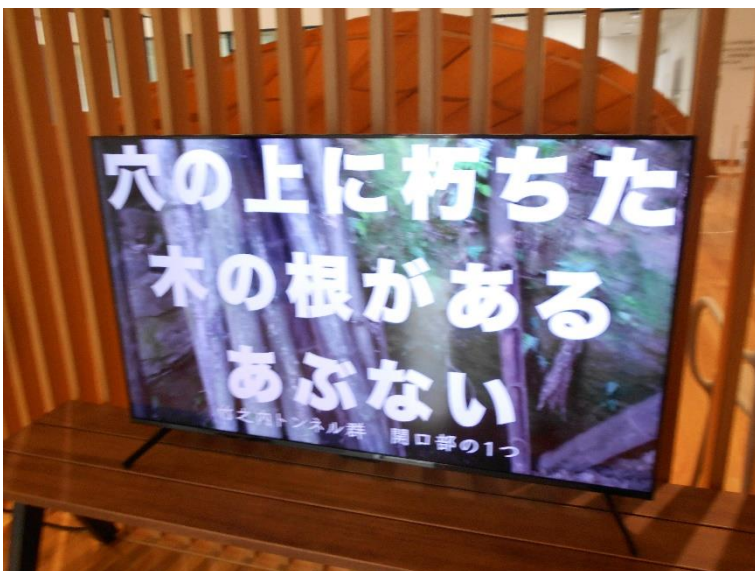
主な近年の展覧会に、「DOMANI・明日展 2022-23」国立新美術館（2022）、国際芸術祭「あいち 2022」常滑（2022）、「どこかで？ゲンビ」 and DOMANI @広島「村上友重+黒田大スケ in 広島城二の丸」（2022）、「対馬アートファンタジア 2020-21」対馬市、長崎（2021）、個展「祝祭の気配」トーキョーアーツアンドスペースレジデンシー、東京（2021）、「未然のライセンス、どげざの目線」京都芸術センター（2021）、個展「不在の彫刻史 2」3331 Arts Chiyoda、東京（2019）、「瀬戸内国際芸術祭 2016」小豆島旧三都小学校、香川（2016）など。

お問い合わせ先： なら歴史芸術文化村 0743-86-4420（代表）

【展覧会の様子】

※本展覧会は、「なら歴史芸術文化村⇔Art-Space TARN⇔天理駅前広場コフフン」のエリア（芸術文化エリア）で同時開催されました。

〈なら歴史芸術文化村（一部抜粋）〉



<Art-Space TARN>

アーティストトーク（2/11：4名、2/26：10名参加）日以外は、埴輪の穴から覗いて鑑賞するスタイルでした。



<天理駅前広場 コフフン サイネージ>

